

燃料小売業における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
1999	1	20 ～ 21	ガソリンスタンドから出る車を誘導するため国道に出たところ、走行中の軽自動車に後方からはねとばされて、さらに対向してきた普通自動車にもはねとばされた。	231	17	10 ～ 29
1999	1	11 ～ 12	同僚労働者と4トン貨物自動車のタイヤ交換作業をしていて左後輪タイヤをジャッキアップしたところ、作業場所が約2度傾斜していたため自動車が逸送し圧死した。	221	7	1～ 9
1999	2	5 ～ 6	給油所に入ってきた10トントラックを後進で計量器の近くに誘導しているときに、後進させていたトラックの後部と給油所を囲う壁との間に頭部を挟まれた。	221	7	10 ～ 29
1999	4	11 ～ 12	給油所で、ガソリンの給油のため停止していた軽自動車の横に立っていたときに、後ろから給油を終わらせて発進してきた乗用車に激突され、乗用車と事務所の防火壁との間に挟まれた。	231	17	10 ～ 29
1999	5	16 ～ 17	給油作業を済ませて軽貨物自動車で県道を時速50キロメートルで走行中、中央線を越えたため、対向の車と正面衝突した。	221	17	1～ 9
1999	2	11 ～ 12	油槽所の給油レーンにタンクローリーを止め、6槽あるタンクローリーの3槽目に給油ホースを押し込み軽油を給油していたところ、突然、タンクの中から火が吹き出したため火だるまとなった。	512	14	1～ 9
		15	ガソリンスタンドにおいて給油待ちの生コンクリートミキサー10トン車が			10

1999	11	～	給油位置に向けて発進したときに、付近で給油のため待機中の給油係店員	221	6	～
		16	を左後輪で頭部をひいた。			29
1999	11	～	道路上にタンクローリーを駐車して給油所の事務室で業務連絡を行い、道	231	17	～
		18	路を横断してタンクローリーへ戻るときに走行してきた車両にひき逃げさ			49
		18	れた。			
1999	4	0	昼食を購入のため自転車で交差点を通行中に、右折してきたトラックには	221	17	1～
		～	ねられた。			9
		1				
1999	7	～	昼食をとるため工事用バンで走行中、対向の乗用車と衝突した。	231	17	～
		11				50
		12				99
1999	9	～	公園駐車場に軽貨物自動車を駐車してエンジンをかけたままエアコンを入	514	12	～
		17	れ、運転席を後部に倒して仰臥して休憩していたが、自動車の後部を土手			10
		18	の芝生に当てた状態で駐車していたため、排気ガスが後部ドアの隙間から			29
		18	車内に入り一酸化炭素中毒になった。			
2000	2	～	車検のため持ち込まれた顧客の乗用車を移送するため片側1車線の国道を走	231	17	～
		9	行中、路面がアイスバーンのためスリップして対向車線にはみ出し、横向			9
		10	きのまま対向してきた2トントラックと衝突した。			
2000	9	～	タンクローリー(通称3キロローリー)で工事現場に軽油を配達するため走行	221	17	～
		9	中、右カーブの道路を左側に逸脱し、電柱に激突した。			9
		10				
2000	10	～	6tの箱型トラックの前輪2本のタイヤ交換のため油圧ジャッキ1台でジャッ	363	4	～
		15	キアップしてタイヤを外し、車体の下でエレメントの交換作業していたと			9
		16	きにジャッキが外れて車体と床との間に挟まれた。			
2000	10	～	大型タンクローリーで自動車道を走行中、インターチェンジの出口の右	221	17	～
		10	カーブを曲り切れずにガードレール(高さ80cm)を乗り越えて9m下の市道			9
		11	に転落した。			

2000	2	20 ～ 21	ガソリンスタンドで、稼働中のセルフ洗車機と外枠の鉄骨柱との間に挟まれた。	169	7	1～ 9
2000	1	17 ～ 18	約30分前に給油所の前で発生した物損事故の後片付けをしていたときに、県道を走行してきた軽トラックにはねられた。	221	17	10 ～ 29
2000	3	10 ～ 11	灯油をタンクローリー(約2.8t)で運搬し配送先付近の坂道(約12度)に停車して給油作業をしていたところ、タンクローリーが逸走したのでこれを停止させようとし70m引きずられてひかれた。	221	17	1～ 9
2000	9	8 ～ 9	自動車洗車機とコンクリート建屋の間にある小物置場へ洗剤を戻そうとしていたときに、自動車洗車機が建屋に入ってきたため自動車洗車機と壁との間に挟まれた。	391	7	30 ～ 49
2000	12	15 ～ 16	ガソリンスタンドで、客の乗用車を自動洗車機の台車(車止め)にセットしてエンジンをかけたままサイドブレーキを掛けずに運転席から降りたところ、洗車機を稼働したときに乗用車がバックし始め道路上に出たのでこれを止めようと手で押さえたが逆に跳ね飛ばされて道路上に転倒した。	231	6	1～ 9
2000	9	13 ～ 14	乗用車で湖周道路を走行中、対向車線にはみ出して対向の4tトラックの側面に衝突した。	221	17	10 ～ 29
2000	1	10 ～ 11	灯油宅配のため3tタンクローリー車で住宅街を巡回中、顧客から出されたポリタンクに灯油を給油しようとして準備しているときに車が顧客宅の塀に向かって動き出したので、車を止めようとして車と塀との間に身体を挟まれた。	221	17	10 ～ 29
2001	1	21 ～ 22	修理の終えたストーブを顧客先へ届けるため軽トラックにで走行中、対向のトラックと正面衝突した。	231	17	1～ 9
		15	灯油配達のため軽貨物車で市道を走行中、スリップして民家のブロック塀			10

2001	2	～ 16	に衝突したのち横転し、車外へ放り出されて車の下敷きになった。	221	17	～ 29
2001	2	～ 21	自動洗車機で客の車を洗車する作業で、同僚が洗車機では洗えない部分を 手洗いしていたのでホースで水をかける手伝いをしていたところ、稼働中 の洗車機と照明灯の支柱との間に頸部、胸部を挟まれた。	169	7	～ 29
2001	3	～ 10	給油所において、乗用車のコーティングを行うための前処理として洗車機 で乗用車の洗車を行っていたところ、洗車機本体と洗車機側方に設置され ていた温水タンクとの間に挟まれた。	169	7	～ 29
2001	1	～ 24	ガソリンスタンドの深夜アルバイトが終了し、スタンドの奥にある洗濯機 置場に向かっているときに足を滑らせ転倒し頭部を強打した。	417	2	～ 49
2001	5	～ 21	ガソリンスタンドのアルバイトがガソリンスタンドから出る車を誘導しよ うと車道のセンタライン近くに出たときに、道路を直進してきた乗用車に はれられた。	231	17	1～ 9
2001	6	～ 14	ガス(プロパン)管家庭へ引き込むため、深さ約1mの穴の中で主管と引き込 み管とを接続していたところ、主管からガスが噴き出したため酸欠となっ た。	513	12	～ 29
2001	4	～ 1	LPガスの検針業務のため軽トラックで県道を走行中、スピードを下げずに 緩い左カーブに進入したため曲がりきれずに対向車線にはみ出し、対向の 10tトラックと衝突した。	221	17	～ 9
2001	8	～ 1	灯油を配達のため軽トラックで国道を走行中、交差点で乗用車が出合い頭 に衝突した。	231	17	～ 9
2001	8	～ 12	オートバイで周辺の店舗の価格を調査中、交差点を直進しようとして右折 してきた車と衝突した。	231	17	～ 29
		22	会社経営のガソリンスタンド(24時間営業)を巡回のために社用車で会社駐			50

2001	10	～ 23	車場から国道へ出たときに、右からの直進車両と激突した。	231	17	～ 99
2001	9	13 ～ 14	事業場の車庫内において、鉄骨梁(高さ2.8m)の塗装を脚立(高さ2m)に載って行っていてバランスを崩し墜落した。	371	1	30 ～ 49
2001	10	1 ～ 2	閉店後、売上金を夜間金庫に入れるためバイクで走行中、無灯火で駐車していたダンプの後部に追突した。	221	17	10 ～ 29
2001	10	16 ～ 17	2階の屋根に設置されているソーラーを修理するため1階屋根までは梯子を掛け、2階には脚立を伸ばして梯子として、先に登った1人が上で梯子を支え、続いてバケツ(モンキーなどの道具入り)を持って登っていたときに、足を滑らせて1階屋根部分に落下し、さらに地面まで落下した。	371	1	1～ 9
2001	12	13 ～ 14	災害復旧工事において、解体用機械(ブレーカー)の燃料である灯油を給油しようとしたときに機械が旋回したため、機械と燃料輸送用貨物自動車との間に挟まれた。	145	7	1～ 9
2001	1	9 ～ 10	客の車両が店を出るときに誘導サービスを行うため、店の前面道路に出て右側からの車両に停車を促す合図を行ったのち、左側からの車両に同様に合図を行ったとき、右側から走行してきた車両に跳ねられた。	231	17	10 ～ 29
2001	12	8 ～ 9	建設工事現場において、ドラグショベルに給油するため約11度の傾斜地にタンクローリー車を止めドラグショベルの給油口を確認していたときに止めたタンクローリー車が動き出し、ドラグショベルのカウンタウエイト部とタンクローリー車の前部との間に胸部を挟まれた。	221	6	1～ 9
2002	3	17 ～ 18	栈橋に停泊中の渡船に当日の午前中に貸し出していた灯油のポリ缶容器を回収するため、貨物自動車で行き栈橋より約7.0m下の海底まで貨物自動車ごと転落した。	221	18	1～ 9
2002	9	18 ～	売上金を社長宅へ届けるため乗用車で国道を走行中、緩い右カーブの下り坂で対向車線にはみ出してトラックと正面衝突した。	231	17	1～ 9

		19				
2002	9	11 ～ 12	2段積みされた硫酸ピッチ入りのドラム缶（容量200?）のうち上方の1缶をフォークリフトで運搬していたときに、ドラム缶の底が破れて中から硫酸ピッチが噴出し、顔面等に降りかかって火傷した。	514	12	1～ 9
2002	12	0 ～ 1	工事現場のエンジン発電機のオイルタンクにA重油を入れるため、タンクローリーをバックで下がっていたときに、路肩に寄りすぎて8.5m下に転落しタンクローリーから投げ出された。	221	1	10 ～ 29
2002	12	14 ～ 15	トラックでプロパンガスを配達して走行中、交差点で乗用車と出会い頭に衝突して車外に投げ出され、トラックの下敷きになった。	231	17	10 ～ 29
2003	3	16 ～ 17	小型トラックで灯油配達途中、赤信号で停車中のトラックにノーブレーキで追突した。	221	17	10 ～ 29
2003	11	16 ～ 17	灯油の配達を終えてタンクローリー（2t）で走行中、国道の交差点手前で横転し交差点脇にある電柱に衝突した。	221	17	1～ 9
2004	7	12 ～ 13	ガソリンスタンドで勤務中、売上金を盗もうとした同僚に殺害された。	999	99	1～ 9
2004	5	16 ～ 17	ガソリンスタンドの従業員である被災者が、入り口脇に設置されている看板の支柱に取り付けられていた布製の広告を取り外そうとして、隣地との境界にある防火壁（高さ約2.4m）の上に、アルミ製脚立をはしご状に伸ばして置き、看板支柱に立て掛け、その脚立伝いに上ろうとしていたとき、バランスを崩して転落した。	371	1	10 ～ 29
2004	11	0 ～ 1	高速道路で、工事による渋滞で停車中のトレーラーに被災者運転の4t車が追突し、更に後続の乗用車に追突された。	221	17	30 ～ 49

2005	8	17 ～ 18	給油ホースをトラックの荷台から屋外に設置された灯油タンクまで引き出す作業に従事していたところ、敷地内にあった使用されていない古井戸の中に墜落した。	418	1	1～ 9
2005	12	21 ～ 22	乗用車で国道を走行中、交差点を左折をしようとしたところ、交差点を曲り切れず、道路案内標識に激突した。	231	17	10 ～ 29
2005	5	10 ～ 11	オートバイで走行中、道路際の住宅塀に激突した。	231	17	1～ 9
2005	2	11 ～ 12	フォークリフトのタイヤのパンクを修理するため、2枚のホイールをボルトとナットで仮留めし、チューブに空気を充填したところ、ナットが外れ、飛来したホイールが被災者に激突した。	521	4	1～ 9
2005	1	8 ～ 9	事業場敷地内の床面に積雪があり、更に凍結していたため、歩行の際に足を滑らせ転倒した。	719	2	1～ 9
2005	10	0 ～ 1	倉庫の屋根上（高さ6m）にて、屋根のペンキ塗りを行っていたところ墜落した。	415	1	1～ 9
2005	11	17 ～ 18	金庫（重さ340kg）を下ろす作業を作業員3人で行っていたところ、階段の踊り場まで下ろした金庫が、被災者とともに転落した。	611	4	1～ 9
2005	12	0 ～ 1	大型オートバイで国道を走行中、対向車線から乗用車が急に右折してきたため、この乗用車の左側面に衝突した。	231	17	10 ～ 29
2005	1	0 ～ 1	トラックで国道を走行中、対向車線にはみ出し、対向してきたワゴン車と正面衝突した。	221	17	10 ～ 29

2005	6	16 ～ 17	灯油の配達のためローリー車を停車し、車から降りて作業にかかろうとした時に、無人の車が被災者の方へ逸走し、車の荷台と建物の壁との間に挟まれた。	221	7	1～ 9
2005	6	20 ～ 21	給油後の車両を国道へ誘導していたところ、国道を走行していた車両に激突した。	231	17	10 ～ 29
2005	2	17 ～ 18	軽トラックで国道を走行中、対向車線をはみ出して街路樹に激突した。	221	17	1～ 9
2006	3	13 ～ 14	バッテリーが故障した自動車の修理を顧客から依頼され、被災者が自動車内に半身を入れ作業を行っていたところ、突然車が前方に動きだした。壁に激突しそうになったため、被災者が慌ててギアをバックに入れ、その後アクセルを踏んだため、猛スピードで後方に走り出し、何本かの木に衝突し方向を変えながら、道路に投げ出されたところで停止した。被災者は車から投げ出され、車の下敷きになった。	231	6	1～ 9
2006	5	14 ～ 15	2階の休憩室で昼食をとり、休憩室を片付け事務所に行こうと階段を降りる途中で転落した。	413	1	1～ 9
2006	8	7 ～ 8	ガソリンスタンド勤務のアルバイト店員が、店内にあるバイクを店長に指示された場所へ移動するためガソリンスタンド前の側道をバイクを押しながら移動中、走行中車輛（バン）が後方から激突し、電柱にはさまれた。	231	17	1～ 9
2006	9	14 ～ 15	社用車を運転して営業活動中、道路の電柱に激突したことにより車両が大破し、身体を強打した。	231	17	30 ～ 49
2006	9	9 ～ 10	被災者は、ガソリンスタンドの排水溝の点検を行っていたところ、通勤途中の乗用車がガソリンスタンドに突っ込んで来たため、乗用車にはねられた。	231	17	1～ 9

2006	10	16	建設機械（トラクター・ショベル）の後方に給油車を止め建設機械に給油作業を行っていた被災者が、後退した建設機械と給油車との間に挟まれた。	141	7	1～9
2006	10	14	ストラドルキャリアーに地上2.5メートルの位置の高さにある給油口から給油作業を行っていたところ、ストラドルキャリアの運転手が、ストラドルキャリアーを後方に動かしたために、給油口近くのドライブシャフトが回転した。回転するドライブシャフトに被災者の作業服が巻き込まれ、地面に墜落した。	226	7	10～29
2006	11	9	被災者が検針業務で原動機付自転車に乗っていたが、信号機の無い交差点で、直進していたところ、進行方向に向かって右側より2tトラックが一時停止をせずに交差点に進入し接触した。	221	17	1～9
2006	12	10	顧客の車両のオイルの交換作業中、オイルを切らしていることに気づき、最寄のSSに取りに行くため自家用車にて走行中交差点で中央分離帯の標識支柱に衝突した。	231	17	1～9
2007	10	15	ガソリンスタンドにおいて、給油を終えた客の軽自動車を店外へ誘導していたところ、その軽自動車にひかれた。	231	17	10～29
2007	11	9	1人でLPガスボンベの配達（交換）を行っていたところ、顧客宅付近の空地（若干の勾配有り）に配達用のトラックを駐車して降りた際、トラックが後進して民家のブロック塀との間にはさまれた。	221	7	10～29
2007	1	9	給油に来た顧客の1.5t積みトラックのオイル交換のため、トラックを作業ピット内に移動させ、カーリフトにて前輪を約35cmリフトアップし、車体の下に潜ってドレンプラグを外そうとしたとき、車体が前方に動き前輪がリフトから落ち、車体前部底面とコンクリート土間の間にはさまれた。	214	7	10～29
2007	6	14	事業場周辺の雑木地にある木の落ち葉が事業場周辺の排水溝を詰まらせるので、木を伐採していたところ、チェーンソーが反発して切った。	136	8	1～9

2007	1	10 ～ 11	石油スタンド構内で停車していた客の車の前方を、業務連絡のため通っていた被災者が、突然急発進した当該車両に激突された。	231	6	1～ 9
2008	12	12 ～ 13	灯油の配達作業のため坂道に灯油タンクを積んだトラックを止めて、10数m下った場所で灯油タンクからポリタンクに灯油を入れる作業をしていたところ、後退してきたトラックと道路脇の電柱の間にはさまれた。	221	17	1～ 9
2008	8	15 ～ 16	弁当の配達中、幹線道路の電柱に衝突して死亡した。	231	17	10 ～ 29
2008	9	10 ～ 11	作業者の3人が事業場に隣接する新店舗建設予定地の購入範囲を確認するために、被災者の案内で同土地内の山林に入り境界を確認しながら歩いていたところ、数匹のスズメ蜂が3人を襲い、集中的に刺された被災者が死亡した。	719	90	1～ 9
2009	3	15 ～ 16	トラックで道路を走行中、緩やかなカーブで対向車線を走行していたトラックと正面衝突した。	221	17	1～ 9
2009	12	7 ～ 8	建設現場内において、建設重機の給油を依頼され、現場内に入場してきた被災者運転のタンクローリー車（タンク最大積載量3400kg）が仮設道路を走行し、方向転換場所の少し上方坂道でUターンしようとして後進した際に土砂が盛り上がった道路端部に後輪を乗り上げたので、状態確認のため、降車した時にタンクローリー車が横転し、被災者が下敷きになった。	239	3	1～ 9
2009	10	11 ～ 12	被災者は一人で岸壁に乗り付けた小型のタンクローリーから、浮き栈橋に係留されたプレジャーボートへの給油を終え、浮き栈橋から岸壁に戻る際に何らかの原因で海中に転落した。岸壁と浮き栈橋は約2m離れ、岸壁の高さは約1.8m、水深約3m。	413	10	10 ～ 29
2009	9	14 ～	トレーラーシャーシに搭載された冷凍コンテナの発電機に燃料を給油する作業中、コンテナ上部にある給油口に接近するために立てかけたはしごを	371	1	1～ 9

		15	上っていたところ、5段目（高さ約1.3m）で足を滑らせ墜落した。			
2009	1	17 ～ 18	被災者の運転する2tタンクローリ車が走行中、進行方向路上にはみ出していた保冷車前部を避けようとして反対車線を走行しようとしたが、対向車が来たため、それを回避するため進行車線に戻ろうとして、保冷車に接触後、道路脇のガードレールに衝突し死亡した。	221	17	1～ 9
2009	1	15 ～ 16	被災者は、タンクローリー（車両重量：3460kg、容量：軽油2907リットル積載）を運転し、一人で配達していた。客先のダンプトラックに給油するため、平均勾配4度の畦道に止めてあったダンプトラックの後方にタンクローリーを停車させ、エンジンを掛けたまま給油準備のためにタンクローリーの前方を歩行していたところ、タンクローリーが前方に動き、タンクローリーの前部とダンプトラックの後部の間にはさまれた。	221	7	1～ 9
2009	12	11 ～ 12	ガソリンスタンドでトレーラー（積載荷重24t）のトラクター部に給油作業中の被災者が、左側のタンクに給油後、右側のタンクへ給油するため同トレーラーの車体の下から給油ホースを通し、その給油ホースを取るために車体の下へ潜り込んだ時、同トレーラーが前進し右後輪でひかれた。	221	7	1～ 9
2010	2	11 ～ 12	被災者は大型ダンプへの給油のため、会社から2tローリー車で採石場に赴き、エンジンをかけたまま停車していた（運転手不在）。ダンプの右横にローリー車を乗りつけ、ダンプの前・後輪間にあるタンクに給油しようとしていた。その時、ダンプ運転手がダンプ左側からダンプの運転席に乗り込み、ハンドルを左に切って4m程後退、さらに右に切って前進したところ、破損したローリー車と、倒れている被災者を発見した。ダンプに轢かれたものとみられる。	221	7	1～ 9
2010	2	21 ～ 22	被災者はガソリンスタンド内の監視室内でモニターチェック、給油許可の操作、ガソリンスタンド内の清掃などの業務に従事していた。午後、被災者が監視室内で仰臥位の状態で倒れているのを給油に来た客に発見された。被災者は同日夜、搬送先の病院で死亡した。発症前の長期間にわたって著しい疲労の蓄積をもたらす特に過重な労働に従事していた。	921	90	1～ 9
			給油所敷地内に設置された洗車機において被災者の自家用車を洗車中、洗			

2010	6	20 ～ 21	車機稼働範囲内に立入ったために洗車機と壁との間の10cmの隙間に挟まれ負傷した。全身挫傷等で入院して順調に回復していたが、手術後に容態が急変し、4カ月半後に死亡した。	169	7	1～ 9
2010	7	17 ～ 18	クーラー修繕の依頼を受け見積りのために2階部分の幅91cmのひさしに設置されたクーラー室外機を点検作業中、足を踏み外し4m下の地面に落下し頭部を強打した。被災者は約1カ月後に死亡した。クーラー室外機の正面側において作業を行った為、十分な作業床が確保できなく、また、安全帯及びヘルメットを着用していなかった。	415	1	10 ～ 29
2010	8	4 ～ 5	事務所内で待機しているとき、何者かに鉱物油を撒かれ、火をつけられた。	999	99	1～ 9
2010	9	8 ～ 9	被災者が会社の敷地周りの巡視を始め、正門前の歩道にいた時に、国道を走る（76歳男性運転の）乗用車が不注意（よそ見か居眠り等）により、被災者がいた歩道に突っ込み、被災者を跳ね飛ばした。被災者はすぐに病院に搬送されたが、死亡したもの。被災者は車のフロントガラスに頭を強く打ち付けた模様。当日は社長巡視の日であった為、被災者は敷地のゴミ、草などを見て回っていた。	231	17	100 ～ 299
2011	3	15 ～ 16	津波により行方不明。	713	10	1～ 9
2011	12	13 ～ 14	被災者が顧客から預かった乗用車を自動洗車機で洗車する作業において、①操作盤で洗車コースを設定し、車を洗車機内の所定位置に停車させた後、②一旦運転席から降り何らかの作業を行い、③稼働した洗車機が前部から運転席扉より後部に移動したことを確認後、運転席に乗車しようとしたところ、④後部側から前部側に移動（折返）してきた洗車機の外殻と運転席扉との間に挟まれた 災害発生から約1時間後に発見されたもの。	169	7	1～ 9
			ワゴン車を運転して自社の置賜店及び客先に商品を届け、帰社するため国			

2011	9	11 ～ 12	道を走行中、トンネル内においてトンネル側壁に接触した弾みで対向車線にはみ出してしまい、対向してきたワゴン車と衝突して頭部陥没骨折により死亡したもの。なお、対向車の運転手も業務中であり、左足骨折を負ったもの。	231	17	～ 29
2011	8	16 ～ 17	被災者は、当日の配達等が終わって時間が余ったため、社長に申し出て会社所有の倉庫敷地内の草刈りを行っていたが、その後、何らかの理由で作業場所から約4m下の県道に墜落したもの。（現認者がいないため、被災者が倒れていた場所からの推測。草刈り機は墜落したと想定される場所から離れた所に置かれており、被災者の倒れていたそばには殺虫剤の缶が落ちていた。）	417	1	1～ 9
2011	7	15 ～ 16	労働者2人で社屋の鳥（鳩）の巣を撤去するため、移動はしご（二連はしご）を当該建物に立てかけ、一人が地上ではしごを抑え、被災者がはしごを昇り、巣の位置等を確認した。確認を終えて、はしごを降りていたところ、突然、二連はしごのロック機構が外れ、不意に上段はしごが下方にスライドしたため、はしごから墜落し、直下にあったブロック塀の笠木に腹部を強打し、内臓出血により死亡した。	371	1	1～ 9
2012	12	20 ～ 21	作業終了後、被災者は灯油を運搬するために会社の軽トラック（灯油少量ローリー積載）を運転して走行中、センターラインをはみ出し、対向してきた乗用車と正面衝突した。	221	17	1～ 9
2013	3	11 ～ 12	被災者は、ガソリンスタンドの給油場所の上に架かっている屋根の上で、雪下ろし作業中、天窗のガラス（幅94cm、長さ1m69cm、厚さ6.8mm）を突き破り、7.5m下の地面に墜落した。	415	1	10 ～ 29
2013	2	14 ～ 15	民家の凍結した水道管を解凍するため、水蒸気により氷を溶かす方式の解氷機をコンロで暖めていたところ、解氷機の容器が破裂し、容器の破片が被災者の頭部に当たった。	391	15	1～ 9
2013	6	9 ～	被災労働者は、2トントラック（LPG車）にLPGボンベ29本及び灯油一斗缶20数本を積み、配達のために県道を走行中、道路から右側へそられて横転し、側道の無人の駐車車両2台に相次いで衝突した。衝突後ト	221	17	10 ～

		10	トラックは炎上し、被災労働者は運転席内で全身火傷を負って死亡した。尚、災害発生時の天候は雨であった。			29
2014	12	16	被災者は、トラックの左後方にあるタイヤにコンプレッサーにより空気を充填していたところ、タイヤが破裂。破裂した際の空気圧で被災者は後方に飛ばされ、大動脈乖離により死亡した。	379	15	1～9
2014	10	11	灯油の配送作業中、屋外に置かれた灯油タンクに給油するため、隣家との境界に設けられた塀に片足をかけ、もう片足を灯油タンクに架けられた木製のはしごの踏みさんにかけたところ、踏みさんが折れ、はしごから転落。はしごの縦木に胸部を打ち、死亡した。	371	1	1～9
2014	8	14	軽油を配達する為、スターターが故障しているタンクローリー車を駐車場の下り坂を利用し、エンジンを掛けようと車庫から駐車場に出そうと前に押したところ、車が片方の柱に寄り過ぎ、車と柱との間に体を挟まれた。	221	7	1～9
2014	3	8	トラクター・ショベルで除雪作業中、雪を用水路に捨てようとしたところ、トラクターショベルごと用水路に転落し、下敷きになった。	141	1	1～9
2015	2	15	道路建設工事現場内の重機に給油するため、被災者がタンクローリー（4輪駆動トラックの荷台にタンクを有するもの）で勾配16度のパイロット道路を登坂していたところ、パイロット道路の約32メートル下にタンクローリーごと転落した。パイロット道路は幅員10mであった。	221	17	1～9
2015	6	11	軽油販売のためタンクローリーを運転中、胸部に圧迫痛を感じ、停車後自分で救急車の手配を行ったが、急性大動脈解離で死亡したもの。	921	90	30～49
2015	6	9	取引先から使用済プロパンガスボンベを積んだ社用4tトラックを運転し、所属事業場へ戻るため国道を走行していた被災者が、信号機のある交差点にて、左側より進行してきた普通乗用車と出会い頭に衝突した。トラックは積荷のプロパンガスボンベを落としながら蛇行し交差点から南に約100mの場所に設置されたフェンスに衝突し停止したが、積荷のプロパンガスボンベから出火し、被災者は運転席に閉じ込められ焼死した。	231	17	10～29

2016	11	11 ～ 12	被災者がタンクローリー車で走行していたところ、何らかの原因でセンターラインを超えた状態のまま走行することとなり、対向車線を走行していた大型ダンプの運転手がセンターラインを超えた状態で走行しているタンクローリー車に気付いて、急ブレーキをかけて停車したが、タンクローリー車は時速約30～40キロメートルを維持したまま大型ダンプに正面衝突した。	221	17	1～ 9
2016	5	9 ～ 10	石油ストーブの撤去作業において、1階屋根上で2階壁面から出ている給排気筒の取り外し作業を行っていたところ、立ち上がろうとした際にバランスを崩して約3.5mの軒先から地面に墜落し、2日後に死亡した。	415	1	1～ 9
2016	2	10 ～ 11	災害発生場所付近の工事現場へ事業場所有の軽ワンボックス車で営業に向かう途中、信号のない交差点で国道を横断しようとした時に東進してきた中型トラックと衝突した病院へ搬送されたが約12時間後に脳挫傷のため、死亡した。	231	17	1～ 9
2016	1	15 ～ 16	ガソリンスタンドで、ダンプトラックの車体にタイヤを取り付ける作業中、タイヤのチューブが破裂し、タイヤをホイールに固定するサイドリングが吹き飛び、被災者の頭部に激突した。	221	15	1～ 9
2017	10	12 ～ 13	タンクローリーを運転し、軽油の配達作業を行っていた。信号機のない交差点で、一時停止の標識があったが、一時停止せず交差点に進入し、左側から走行してきた乗用車と衝突した。	221	17	30 ～ 49
2017	10	8 ～ 9	営業所から社用車を運転してガスの開栓及び湯沸かし器の取り付けのために客先に向かっていたところ、車道左側に逸脱し、電柱に激突した。	231	17	10 ～ 29
2017	8	8 ～ 9	外灯の金属製支柱（高さ5m、直径8cmの円柱）の再塗装を行うため、移動はしご（全長4.32m、幅0.39m、アルミ製）を支柱に立て掛け、はしごの踏み栈上で刷毛塗り作業中、はしごごと倒れ墜落した。被災者は、アスファルト地面に頭部等を打ち、脳挫傷及び急性硬膜下血腫により死亡した。保護帽は未着用であった。	371	1	1～ 9

2017	3	8 ～ 9	セルフサービス式ガソリンスタンドで接客業務を行っていた被災者が、事業場の東から西に移動するため、事業場と車道の上に設置されている歩道を歩いていたところ、車道から歩道に進入したまま暴走してきた車にひかれた。	231	17	1～ 9
2018	11	14 ～ 15	灯油販売用ローリー車でひとりで灯油を配達していた配達員が、客先の私道でローリー車を停車させ車外にいたところ、後退したローリー車もろとも約3m崖下の民家敷地に転落した。転落後に自力で這い出した配達員は救急搬送され、上半身圧迫による大動脈破裂のおそれや頭部裂傷のため入院加療するも、後日多臓器不全・大動脈乖離により死亡。配達員は転落時に地面又は崖とローリー車との間に挟まれたと思われる。	221	7	1～ 9
2018	9	2 ～ 3	被災者は、給油のために来店したタクシーを後方で誘導していた際に、タクシー運転手がアクセルを踏みすぎたために衝突され、地面に後頭部を強く打した。	231	6	10 ～ 29
2018	6	10 ～ 11	個人宅へ灯油を配送する業務を行っていた被災者が、タンクローリーに轢かれて死亡したもの。災害発生直前、タンクローリーは原動機を稼働させ、サイドブレーキをかけた状態で配送先宅前の坂道に停車させてあったものの、輪留めが使用されておらず、坂道の下方へと逸走したもの。被災者はタンクローリーの後部にいたため、轢かれた。	221	7	1～ 9
2018	3	8 ～ 9	事業場内で起きた事象により自殺に到った。	921	90	10 ～ 29
2018	2	14 ～ 15	灯油の配達業務を行っていた被災者は業務用の軽トラックを運転し、信号機のある交差点を東側から直進したところ、交差点を南側から直進してきた乗用車と衝突し、頭蓋骨骨折等により死亡したもの。	231	17	1～ 9
2019	11	16 ～ 18	港の駐車場において、タンクローリー（4t車）のエンジンをかけ、ギアチェンジしたところ、ギアの状態に不具合が認められたため、運転席から離れて、当該車両の下にもぐり込み、ハンマーでギアボックスを叩いたところ、車両が動き出し、車両の下にいた被災者が轢かれ、死亡した。	221	7	1～ 9

2019	5	10 ～ 12	被災者は、建設現場内で使用する重機に給油を行うため、給油車に乗り単独で軽油の配達業務に従事していたが、その際に一般国道から建設現場へ通じる仮設道（幅約3.3m）を後進中に道路脇の斜面下（高さ約1.6m）に車ごと転落したものの。	221	1	1～ 9
2019	2	16 ～ 18	ガソリンスタンド内において、業務のため構内を歩行中の被災者が、洗車機からバックしてきた同僚の運転する乗用車（客の車）に激突され倒れた際に頭部を負傷した。すぐに、救急車で病院に搬送され療養していたが、後日死亡した。	231	6	1～ 9
2019	1	6 ～ 8	午前頃、顧客から当該給油所が営業していない旨の連絡があり、担当者が当該事業場に駆け付けたところ、被災者は頭から血を流した状態で監視室の椅子に座り、意識を無くしていた。救急車で搬送されたが死亡が確認されたもの。現場の状況等から、被災者はガソリンスタンドの洗車場の前で転倒し、頭を打ったものと推定される。	417	2	1～ 9
2020	9	12 ～ 14	2階建てアパートのガス給湯器の更新作業を行っていた。既設給湯器は、地上高さ約4mの壁面にあり、はしごを立てかけ取り外した。次に新規給湯器を同一場所に取り付けるため、重さ約20kgの給湯器をはしごに滑らせるように設置場所まで持ち上げ、固定ビスに引っ掛けようとして、バランスを崩して地上に給湯器とともに墜落した。	371	1	10 ～ 29
2020	7	18 ～ 20	被災者は事業場の西側にある用水路に転落し、翌日、同用水路内において、うつ伏せに浮いている状態で発見されたものである。	713	10	1～ 9
2020	5	22 ～ 24	セルフ式ガソリンスタンドで勤務する労働者が、同敷地の南西側に隣接する深さ1.1メートル、幅61センチメートルの側溝に墜落し、死亡したものの。	417	1	1～ 9
2020	2	18 ～ 20	被災者は給油所内で所長と2名で作業を行っていた。所長がゴミ箱の片づけを行っているところに、被災者が作業の指示を仰ぐため後方から所長に近付いた。所長が指示のため右手を後方に振り上げたところ、右手の甲が被災者の顎に当たった。被災者は脳震盪のような状態になり、意識を失っ	719	6	1～ 9

			た状態で後方に倒れ後頭部をアスファルトの地面に激突した。			
2020	2	12 ～ 14	給油したドラム缶を車両に積んで事業場へ戻る途中、行方不明となり、翌日の夕方、道路より15m下の川へ転落している車両の中で、死亡しているのを発見された。	231	17	1～ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.htmlに戻る。